

a 学校教育目標	自らをきりひろく たくましい児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 主体的・協働的に取り組み、やりぬく児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域とともに歩み、児童が豊かに成長する安心と信頼のある学校
----------	---------------------	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	(1)基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる。	○ドリルや各種学力テストを通して個の課題を把握し、R-PDCA(調査-計画・実践・評価・改善)に基づく学習指導を組織的に行う。	・NRTについては、各学年の設定した目標偏差値を達成した児童の割合 ・CRT到達度(全国平均+10P)達成の児童の割合 ・各教科(国語科・算数科・理科)学期末まとめのテストで85%以上を到達した児童の割合	90%										
		○「児童生徒のICT活用の系統表」に基づき、児童が自らICTの特長を理解して意図的に活用できる授業を計画・実行する。 ○児童が時間・場所・学習内容により自分で選びICT機器を自由に活用できる機会を保障する。	・デジタル教科書の活用や思考ツール、スライド等を活用させながらの授業の実働 ・児童アンケートで「ICT活用のよさ」や「どう活用できているか」「自分たちが中心となってICTを活用して学習を進められているか」など肯定的に回答した児童の割合	90%										
	(2)表現力並びに主体性・協働性を育てる。	○学習者が主体となる授業づくりを行う。 ・「複式学級指導の手引き」の研修(4月) ・「きはら学びのステップ」児童参観交流会(毎学期ごと) ・指導者のファシリテートを重点課題とする授業公開(年間2回以上) ○R80(まとめ・振り返り)の目的・意味を学習者と共有し、行事や授業時間ごとに実施する。 ・2~6年生は、書くことを中心にして実施する。 ・1年生については、1学期は状況を把握しながら、話すことからの振り返りや内容選択で思いを表出する振り返りを実施する。	・児童アンケートで表現力関連アンケートにおける肯定的評価の割合 ・児童アンケートで主体性・協働性関連アンケートにおける肯定的評価の割合 ・児童アンケートで振り返り関連アンケートにおける肯定的評価の割合	90%										
豊かな心の育成	(1)自ら行動し、やりぬく意欲と自信を育てる。	○マラソン、なわとび、暗唱、読書の自己の目標を設定し、目標に向かって挑戦する「木原チャレンジ」を継続する。 ○話し合い活動や委員会活動、縦割り掃除等、目標をもって自立的に取り組み、関わり合い、協力し合う場を設定し、自己の変容を振り返らせる。	・児童アンケートで「木原チャレンジ」の目標達成、「目標を決めてやり切る」への肯定的評価	100%										
		(2)他者を思いやり、協働する態度を育てる。	○地域の素材を生かした特色ある授業づくりを充実させる。また、地域の人や文化(木原太鼓踊り)、行事(とんど祭り)等とつながる「ふれあい活動」を推進し、地域との交流やお世話になった方々への感謝の気持ちを伝える場を設定する。	・児童アンケートで、「木原町の好きなところ」や「地域の行事への参加」「楽しかった地域との交流」などに記述等で回答する児童	100%									
健やかな体の育成	(1)健康で安全な生活習慣を身に付けさせる。	○「健康生活チャレンジウィーク」や「歯みがき週間」を実施する。歯みがきの方法や意義について指導し、児童が主体的に歯みがきの方法を工夫することによって、歯みがき習慣の定着を図る。	・歯みがきの習慣を身につけた児童の割合(平日朝・夜)	100%										
		(2)運動への意欲を育て、体力の向上を図る。	○「木原チャレンジタイム」を設定し、目標を決めて継続して運動に取り組ませる。また、体育科の授業では、サーキット運動や主運動につながる運動を工夫し、体力の向上や運動への意欲を高める。 ○児童会を主体として「みんなあそび」を実施したり、外遊びの呼びかけを行ったりする。また、体育朝会で楽しみながら体を動かせる運動を紹介し、運動に親しみをもたせる。	・児童アンケートで「運動すること」「体育科の授業」への肯定的評価	100%									
信頼される学校の形成	(1)保護者・地域の学校への理解を深める。	○学校・学級だよりの内容を工夫し、計画的に発行して(学校だよりの月1回、学級だよりの月2回以上)、地域・保護者に発信する。 ○保護者・地域の方と連携・協働する「ふるさと学習」を充実させる。	・地域、保護者アンケートでの肯定的評価	90%										
		(2)安心・安全な学校づくりを推進する。(不祥事ゼロ)	○「木原小セーフティガード」の活用や不祥事防止研修の工夫により、安心・安全に対する職員の意識を継続・強化する。 ○業務改善を推進するとともに、目標の共有と協働により、職場の同僚性と教師のウェルビーイングを高める。	・「木原小セーフティガード」目標値(110%)達成(直近)職員 ・地域、保護者アンケートでの肯定的評価	100%									

【:自己評価 評価】  
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100  
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【学校関係者評価 評価】  
イ:自己評価は適正である。  
ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。